

編集後記：新型コロナウイルス感染症の世界的な流行が始まってから約2年が経ち、その間の移動制限に大きく影響を受けたのはやはりフィールド調査ではないでしょうか。最近になってようやく海外を含めたフィールド調査が再開されてきたかと思えます。かくいう私も先日久しぶりにフィールド調査へ参加する機会がありました。調査地はグリーンランド北西部に位置するカナック氷帽、私にとっては2012年以来、実に10年ぶりのカナック再訪となりました。

氷帽の麓にあるカナック村は以前と変わらぬ姿でそこにありました。犬橇を引くための犬、舗装されていない道路、平日の午前中しか開いていないシャワー屋さん、村に1軒だけのスーパーマーケット、眼前に広がるフィヨルドにびっしり詰まった海水、そこで立ち往生する年に1回だけ訪れる補給船、まるでタイムスリップしたような感覚に陥ると共に、思えば遠くに来たものだ、と特別なことをしているような高揚感がありました。同時に、落ち着いてよく見渡すと、以前訪れた時と比べて家や人、犬も確かに増えていて、時の流れを改めて感じました。

しかし10年という歳月を最も実感したのは、やはり氷帽へと上がる山歩きでした。少なからず身につけた経験や知識以上に、特に最近のコロナ禍で身体に蓄えた傲慢さが私の足取りを重くさせるのでした。歩けど

歩けど近づかない氷帽を目指す道中、辺りを見渡すと、苔や岩で覆われた山肌の至る所に雪や氷の溶け水による小さな川が流れています。思わず足を止め、そこに流れる水を口にしたら、自然と言葉が溢れてきました。「ママット」

ママットはグリーンランドの言葉で美味しいという意味です。普段暮らしている日本でも、雪と氷のグリーンランドでも見上げれば空があるように、美味しいものを食べたり飲んだりした時に感じるママットはどこにでもあるんだ、そういった思いが胸を駆け巡りました。

日本を離れた北極での暮らし、特別な環境で特別なことをしているような気になっていましたが、どこでも同じ人間が地続きで生きている、ママットを感じている、そう思うと自身に纏わりついた傲慢さが少しだけ軽くなったような気がしました。足取りは重いままでしたけど。

今後フィールド調査へ行かれる皆様も、コロナ禍で体力も落ちているかと思いますので、ぜひお気をつけて。

(島田利元)

※天気 Twitter (@TENKI_metsoc) でグリーンランドの写真を紹介しております。編集後記と共に楽しみ下さい。